

Jacquemin, Raphaël. Iconographie générale et méthodique du costume du IV^e au XIX^e siècle (315-1815) collection gravée à l'eau forte d'après des documents authentiques & inédits. Paris, L'auteur, [1863—1869] 200 plates ((copper. hand-col.(45.4×31.6cm <383.1-J>

Hiler p. 473 Colas 1528-31 Lipp. 337

恐らくは、最も初期に属する200枚の銅版手彩色からなるフォリオ版の服飾図集で、1867年の万国博覧会で賞を受けたことが記されている。図は単純・簡潔ながら描写は忠実で実証的である点に特徴があり、その後の服飾史研究にも大きな刺激を与えた。というのも、ファッション・プレートは別として、歴史服の彩色を施した組織立った図集は、それまではほとんど皆無だったからで、わずかにジャクマンより数年前の1860年にパリで刊行されたメルキュリとボナール共著 (Mercuri & Bonnard) の『13・14及び15世紀の服装史』*Costumes des XIII^e, XIV^e et XV^e siècles, 1829—1830 (21)* という全2巻からなる中世服の図集がある程度だった。もっとも、ジャクマンの図集と平行してドイツのクレッチマーとロールバッハ (Kretschmer & Rohrbach) による『諸国民の服装』*Die Trachten der Völker, 1860—1864 (87)* という色刷り石版画による見事な図集がライプチヒで刊行されたのは、特筆してよかろう。この本は1882年にも再刊されており、クレッチマーが図を、ロールバッハが解説を担当している。

再刊といえば、このジャクマンの著作も本書よりは、むしろその10年ばかりのちの刊本——それは12世紀までで終わっているが——がよく出回っているので、この方がよく知られている。すなわち『4世紀から12世紀までの西洋の市民服・宗教服・武装』*Histoire générale du costume <383.13-J>* で、これには解説も付されているが、中世以降については未刊のままに終わった点が惜しまれる。

著者は画家であると同時に腐蝕銅版画家。1821年パリに生まれ、1881年に同地で没している。モンダンに師事し、のちイタリアのアカデミーに学んだ。1851年のサロンでデビューしている。

本書では、図版1～6までを古代に、図版7～57までの51枚を中世に、図版58～183までの126枚を近代に、そして図版184～200までの17枚を東洋に当てているが、書誌によれば1872年ごろに図版201～280までの80枚に及ぶ補遺を刊行しており、1880年にパリのナドー社から発行された第2版、及び1910年ごろに同じくパリのギヤスタンジェ社から発行された第3版には、この補遺も含まれている由であるが、筆者はまだ閲覧の機を得ていない。(石山)



JEUNE ELEGANT 1480 (MANUSCRIT. BIBLIO^e DE L'UNIVERSITÉ DE TURIN.) Dessin inédit